

Tech **x** Management



東京理科大学

大学院 経営学研究科 技術経営専攻

東京理科大学大学院
経営学研究科技術経営専攻からの

メッセージ

1 技術と経営の融合で イノベーションを起こせ

理科大MOTは、社会人のためのビジネススクールです。2年間で、技術経営修士号を取得することができます。平日昼間に業務をこなした後、平日夜間と土曜日に多くの社会人学生が神楽坂に集い、熱い議論を繰り広げています。中心テーマは「イノベーション」。技術と経営を融合させることで、社会課題解決と持続的成長の両立を目指します。

2 社会人学生が 学びやすい環境を提供

平日夜間と土曜日の終日に授業を行っています。校舎は飯田橋駅(JR、地下鉄)にほぼ直結した利便性の高い場所にあります。大半の授業は対面と遠隔(Zoom)を併用しており、社会人が学びやすい環境を提供しています。多くの学生が関東近郊の群馬県、静岡県などや、中部圏、関西圏から通学しています。

3 リスキングに 最適なプラットフォーム

リスキングとは、新しい職業に就くために、あるいは今の職業で必要とされるスキル的大幅な変化に適応するために、必要なスキルを獲得することです。本学MOTには、実力と熱意を兼ね備えた社会人学生が集い、日々ディスカッションやグループ討議などを通じ切磋琢磨しており、まさにリスキングに最適な環境といえるでしょう。

担当副学長からのメッセージ



建学の理念に基づき、 “技術経営”を担う人材を 育成します

東京理科大学 副学長

坂田 英明

本学は、「理学の普及を以て国運発展の基礎とする」を建学の精神とし、明治から昭和にかけて優れた理数教員を多数輩出してきた東京物理学校の伝統を受け継ぎつつ、昭和24年の学制改革により東京理科大学として大きく発展し、我が国最大の理工系総合大学として、20万人にのぼる有為な人材を世に送り出してきました。

現在、我が国では、産業競争力の低下、雇用創出の停滞、少子高齢化など多くの課題が山積しています。これらの課題を克服するためには、技術革新によって高い生産性を生み出すとともに、国際競争力を持つ産業を育成していく必要があります。これには、科学技術の知識を修得した人材だけではなく、経営の観点に立って課題解決を提供できる人材を育成することが急務です。

東京理科大学大学院経営学研究科技術経営専攻(MOT)は、「科学技術」および「経営」の実践的融合並びに「グローバルな視点」「高い職業倫理観」の育成を図った教育を通じて、社会の急速な変化に敏速かつ革新的に対応し、牽引することができる高度専門職業人を養成し、社会に輩出することを目的としています。

MOTでは、最先端の科学技術に関する教育・研究を担う東京理科大学の教員を招いての授業科目「先端科学技術特別講義」を開講しています。さらには大学発ベンチャーの創出を加速する目的で設立された、東京理科大学イノベーション・キャピタル株式会社(TUSIC)がMOTの授業に参加するなど、東京理科大学は全学で、専門職大学院の発展のための支援を行っております。本学MOTの今後の展開にご期待ください。

東京理科大学大学院経営学研究科技術経営専攻の 3つの方針

ディプロマ・ポリシー【修了認定・学位授与の方針】

技術経営専攻(専門職学位課程)においては、理学と工学が一体となった「科学技術」、「経営」の実践的融合、「グローバルな視点」及び「高い職業倫理観」の育成を図った教育を通じて、高い実践的な専門性と倫理観、国際的視野を持ち、社会(産業界等)の急速な変化に敏速かつ革新的に対応し、社会を牽引することができる高度専門職業人である起業家・CXO※になる人材を育成することを目的として、本専攻に2年以上在学し、以下の知識(知見)・能力を最終成果物(グラデュエーションペーパー)により測り、本専攻の定める40単位を修得した学生に対して修了を認定し、技術経営修士(専門職)の学位を授与する。

1. 技術経営及びその関連分野についての高度な実践的専門知識。
2. 技術経営及びその関連分野における高度な実務実践能力。
3. 「科学技術」と「経営」の実践的融合により、「理論」と「実践」の両面からイノベーションに係る課題を把握・分析することができる能力。
4. 既存の科学技術研究の成果を基礎に、イノベーションに係る新たな仮説を設定することができる能力。
5. 技術開発から市場化へのプロセスにおける一連のイノベーションを担い、課題解決することができる能力。
6. イノベーションに係る課題の解決策を戦略的に提案・論証することができる能力。
7. 起業家・CXO※に必要な高い職業倫理観を持ちつつ、高度な実践知と卓越した能力をもとに、グローバルな視点を持って適応し活躍できる能力。

※CXO:CEO、COO、CTO、CFO、CMOなどの企業活動における業務や機能の責任者の総称

カリキュラム・ポリシー【教育課程編成・実施の方針】

技術経営専攻(専門職学位課程)においては、多様なバックグラウンドを持つ学生に対して、高い実践的な専門性と倫理観、国際的視野を持ち、社会(産業界等)の急速な変化に敏速かつ革新的に対応し、社会を牽引することができる高度専門職業人である起業家・CXO※になる人材を育成するという目的を実現するため、「科学技術」及び「経営」の実践的融合を図り、「東京理科大学専門職大学院教育課程連携協議会」と連携し、社会ニーズ・シーズに応えるとともに、「グローバルな視点」及び「高い職業倫理観」を育成する授業科目を開発し、学生個々のキャリアパスや能力に応じて、学修目的を達成するための個別学修プログラムを策定することが可能な教育課程を編成・実施する。

- (1) 急速に変化する社会ニーズ・シーズに応え、課程の人材育成に関する目的に基づき起業家・CXO※等の構成要素に則した教育領域8領域(CEO/COOの知見教育領域、CTOの知見教育領域、CMOの知見教育領域、CFOの知見教育領域、CIO/CDOの知見教育領域、起業家の知見教育領域、その他CXO・ステークホルダーの知見教育領域、CHROの知見教育領域)を設けて授業科目を開発する。「複数領域で共通する基盤的知識・知見の修得が可能であり、且つ学生間の知識・知見のレベルを標準化する基盤科目」、1領域、又は複数領域融合の社会ニーズを先読みし、専攻の目的、ディプロマ・ポリシーの到達に合致した高度な知見の修得が可能な「専門科目」、「社会連携科目」及び学生個別の到達目標を実現する「演習科目」に区分し、開発した授業科目を重点的・効果的に配置し、教育課程を編成・実施する。
- (2) 「基盤科目」、「専門科目」及び「社会連携科目」では、常に社会状況を捉え、より高度で最新の実践的専門知識を段階的に身に付けるため、教育研究領域に重点的・効果的な授業科目を配置する。
- (3) 「演習科目」では、人材育成に関する目的を踏まえた学生個別の目的を達するために、以下の授業科目を配置する。
 - ①「ゼミナール」(「ゼミナールエクササイズ」、「ゼミナール1~4」)は、演習指導教員の指導下で、実践的理論化、企業調査活動、経営者等の各種インタビュー等により、学生個々の課題の明確化、仮説の設定、課題解決案を構想し、それを推し進め、論証・実践能力を総合的に身に付ける。その成果物として、学生個々の課題に応じた最終成果物(グラデュエーションペーパー)を作成する。
 - ②「ケーススタディ」(「実践CXO・起業家ケーススタディ1~3」及び「実践ケーススタディ」)は、学生・教員が共に経営者、起業家、修了生の講演等を聴講し、個々の思考力や妄想力で討論を行い、他者とのバックグラウンドの差により思考力や妄想力等の能力・知見に差異があることを理解し、学生個々の更なる思考力や妄想力等の総合的な能力・知見を涵養する。
- (4) 演習指導の過程では、高度専門職業人として国内外でグローバルな視点を持って活躍できる能力を育成する教育を行う。

※CXO:CEO、COO、CTO、CFO、CMOなどの企業活動における業務や機能の責任者の総称

アドミッション・ポリシー【入学者受入れの方針】

技術経営専攻(専門職学位課程)においては、建学の精神と実力主義の伝統に基づき、本学の教育研究理念のもと、

1. 学士課程、修士課程又は博士課程を卒業・修了後に一定の実務経験(概ね10~15年の実務経験又はその年数と同等である優秀な業績)を有し、専門分野で高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を身に付けようとする人、専門分野で自ら課題を発見し解決する意欲のある人、高度専門職業人に必要な能力の修得を目指す人、主体的に多様な人々と協働して学修を行う意欲のある人。
2. 実践知や学識及び能力をもとに社会においてグローバルな視点を持って活躍しようとする意欲のある人。

を多様な選抜方法により広く求める。

- (一般入学試験)
多様性の確保に重点を置き、大学での専攻分野を問わず、本専攻の特性に見合う実践知を含む専門能力、分析力、論理力、思考・発想力、マネジメント力及び表現力で優れた素質をもち、本課程の人材育成に関する目的を理解する人を、書類審査、面接等により選抜する。
- (企業推薦型特別入学選考)
企業又は職能団体等が本課程の人材育成に関する目的及び各種方針に賛同し、企業又は職能団体等が優秀と認める人材であり、高度な実践知を含む専門能力、分析力、論理力、思考・発想力、マネジメント力及び表現力で優れた素質をもち、本課程の人材育成に関する目的を理解する人を、書類審査、面接等により選考する。
- (社会人特別選抜)
企業又は職能団体等において豊富な実務経験(10年以上)を有するとともに、高度な実践知を含む専門能力、分析力、論理力、思考・発想力、マネジメント力及び表現力で優れた素質をもち、本課程の人材育成に関する目的を理解する人を、書類審査、面接等により選抜する。

理念と特色

1

学生の平均年齢は40代前半で 理系出身も数多く学ぶビジネススクール



MOTでは最古参の校であり2024年で開設21年目。1,000名を超える修了生はベンチャーの創業者や大企業の役員としても活躍しています。MOTとはManagement of Technology(技術経営)の略です。全学生が実務経験を持つ社会人で、文系だけでなく理系出身者も多く入学しています。学生の所属業界や職種は、金融や商社等の経営企画や営業職だけでなく、製造業やITの生産管理や研究職等にも広がっています。平均年齢は40代前半で、20代後半から60代までの幅広い年齢層の学生が在籍し、職歴や職位もバラエティーに富んでいます。

2

学生の「多様さ」と「経験の豊富さ」を 全面に活かしたプログラム

本専攻の最大の強みは、在籍する学生の豊富な実務経験と多様性です。ゆえに本学MOTでは、全ての科目においてこの強みを全面に活かす工夫や仕掛けを展開しています。学生の発言次第で結論が変わるケーススタディ、自らの実務や自社事例を題材にしたレポートによる議論、経営者を招聘したゲスト講演における十分な質疑時間の確保などが、その一例です。科目構成でも在籍学生の特徴を深く考慮しており、例えば理系出身者を念頭に置き、経営学初学者を想定した基盤科目とイノベーション関連の専門科目を充実させています。



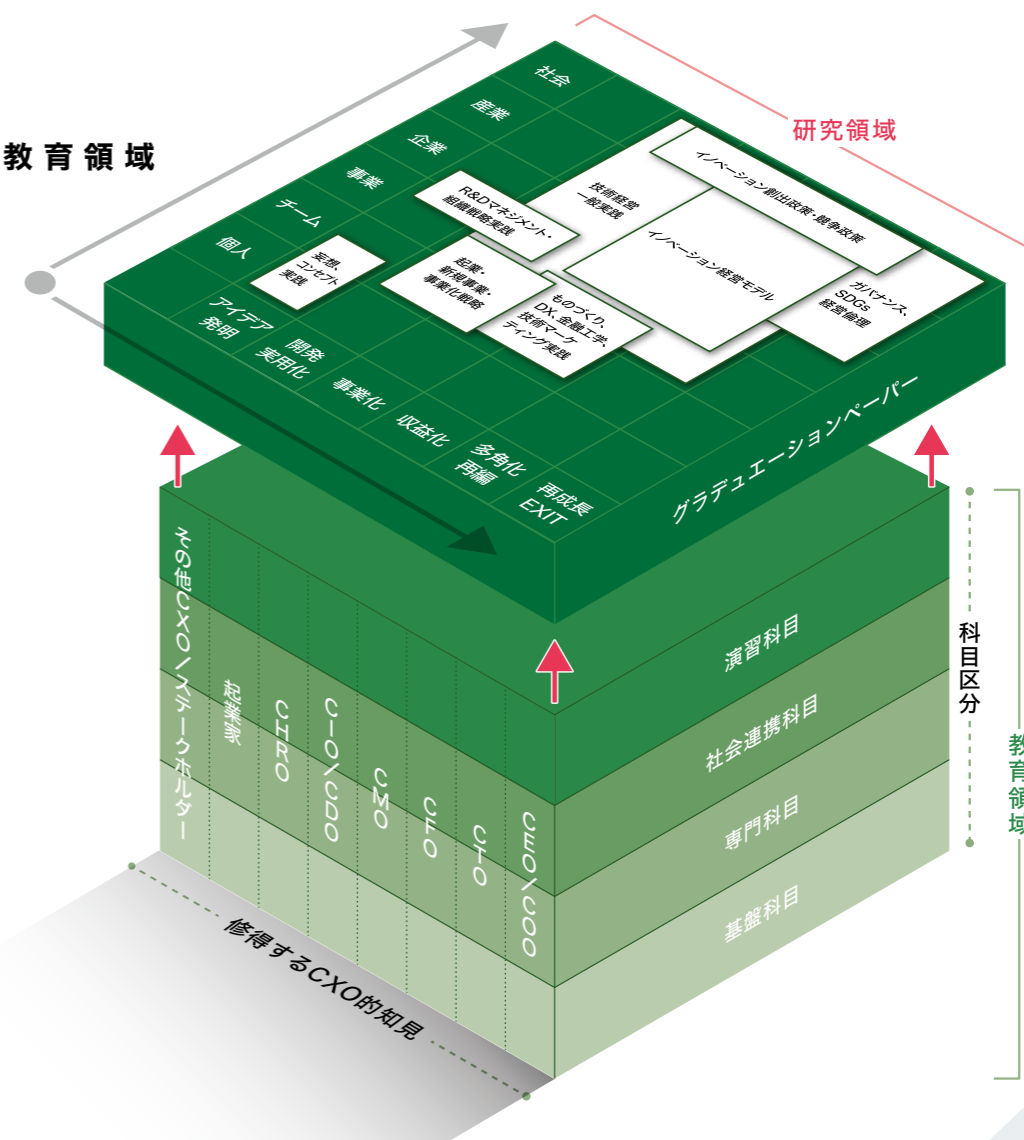
3

実務や実業に直結する グラデュエーションペーパー(GP)を 1年半かけて研究し、作成

本学MOTではゼミナール関連の演習科目は必修です。全員が1年次の後半から専任教員の研究室(ゼミ)に所属し、技術経営に関連する研究を行い、その成果をグラデュエーションペーパー(いわゆる修士論文に該当)へと仕上げていきます。ペーパーといっても、いわゆる学術論文とは異なり、多くの学生が実務に関連する課題、所属する企業、業界や地域が抱える課題をテーマに設定し、その原因分析や解決策の提案を試みます。研究の成果が現実の改革につながるケースも多く、重要な経営課題を解決する能力を養う稀有な機会になります。



MOTの 研究領域×教育領域



専攻主任からのメッセージ



理論を真に自分のものとする
実践型の学びが
明日のあなたを変える

専攻主任

青木 英彦

いつの時代にも、新しい技術を経営に取り入れることで、企業はイノベーションを起こしてきました。一方、経営はさまざまな立場の人と協働しながら価値を作り上げていくという、きわめて人間臭い総合的な営みです。理科大MOTでは、技術経営に関する理論のみならず、多様な同志と共に一つのものを作り上げていく力を得ることを目指します。この体験を通じて得られる最も貴重な資産は、生涯の友であり、信頼し合えるビジネスパートナーでしょう。せっかくの学びも、組織と個人の行動変容に結びつかなければ、成果を生むことはありません。知識・理論を自分事に落とし込み、明日からいかに自分

の行動を変えるかにこだわった教育を行っています。ビジネスを取り巻く環境、とりわけ技術の進歩は加速しており、ビジネススクールに求められる姿も様変わりするでしょう。2004年に産声をあげた理科大MOTは、よりオープンでより多様性を持つ生態系へと生まれ変わろうとしています。分野を問わず、一生懸命自分で考えて行動し、その結果からどん欲に学んできた方、また、自分と背景や考え方の違う人を尊重し、共感を広げていける方、理科大MOTで革新への一歩を踏み出しませんか？ 教員一同、皆さまと過ごせる二年間を心待ちにしています。

東京理科大学大学院
経営学研究科技術経営専攻の

カリキュラム

1 特徴

平日の夜間および土曜日に開講

平日の講義は18:50からのスタートです。授業開講時間は基本170分(1時限85分)です。
原則として連続時限で授業を行い、四半期8回を基本としています。<2025年度より>

平日夜間開講		土曜日開講			
6時限	18:50~20:15	1時限	9:00~10:25	5時限	15:50~17:15
		2時限	10:30~11:55	6時限	17:20~18:45
7時限	20:20~21:45	3時限	12:45~14:10	7時限	18:50~20:15
		4時限	14:15~15:40		

通学しやすい立地

■ 授業を実施する神楽坂キャンパスの最寄りの駅は、鉄道5路線が交差する飯田橋駅となり、駅から徒歩5分以内の場所に学び舎があります。
【交通案内】 JR中央・総武線飯田橋駅西口より徒歩5分、地下鉄有楽町線・東西線・南北線・大江戸線飯田橋駅B3出口より徒歩1分

オンラインによる学修環境の提供

■ 授業形態は、一部の授業を除き対面とオンラインのハイフレックス型で受講が可能です。
■ 授業で使用するオリジナル教材の配付やレポートの提出はオンラインで行うことができます。また、大学からのお知らせもオンラインで配信します。

2 科目区分

基盤科目

専門科目、社会連携科目および演習科目を履修し、卒業論文を完成させる上で、必要かつ共通の応用的知識や知見を修得する科目を配置する。

専門科目

学生の社会ニーズに応える能力、卒業論文を完成させる上で、必要な専門的知見を修得する科目を配置する。

社会連携科目

イノベーションを起こすCXOや起業家を目指す学生が、必要とする知見を学ぶだけでなく、MOTのほか、本学他学部、企業や業界団体等と交流、連携していく科目を配置する。

演習科目

CXOや起業家をを目指す学生が、イノベーションを起こしてきた経営者や起業家等のケーススタディに触れる等の機会を通じ、学んだ知見を総合的に組み立て、特別解として実践知を修得する科目を配置する。

3 修了要件と履修要件

修了要件

2年以上在学し、以下の科目修得条件を満たし、40単位以上を修得すること。
① 必修科目を全て履修し、修得すること。
② 専門科目から20単位以上を履修し、修得すること。

履修要件

① ゼミナール1の履修は、ゼミナールエクササイズを履修し、修得することを履修条件とする。
② 授業科目によっては指定科目の履修を条件とする場合がある。
③ 1年間に履修科目として登録することができる単位数の上限は、34単位とし、半期の単位数の上限は28単位とする。

2025年度開講予定の科目一覧

※科目名は変更する可能性があります。

科目区分	教育領域								授業科目の名称	必・選区分	標準履修学年	単位数
	CEO/COO的知見	CTO的知見	CFO的知見	CMO的知見	CIO/CDO的知見	CHRO的知見	起業家的知見	その他CXO/ステークホルダー的知見				
基盤科目	○	○	○	○	○	○	○	○	技術経営入門	選択	1	2
	○	○	○	○	○	○	○	○	経営戦略			
	○	○	○	○	○	○	○	○	経営組織			
	○	○	○	○	○	○	○	○	マーケティング			
	○	○	○	○	○	○	○	○	アカウンティング			
	○	○	○	○	○	○	○	○	ファイナンス			
	○	○	○	○	○	○	○	○	知的財産管理			
	○	○	○	○	○	○	○	○	研究方法論			
	○	○	○	○	○	○	○	○	スタートアップサイエンス			
	○	○	○	○	○	○	○	○	標準化戦略			
専門科目	○	○	○	○	○	○	○	○	科学技術・産業政策	選択	1-2	2
	○	○	○	○	○	○	○	○	マネジメント総論			
	○	○	○	○	○	○	○	○	イノベーションのための財務会計			
	○	○	○	○	○	○	○	○	ビジネスエコノミクス			
	○	○	○	○	○	○	○	○	イノベーションを生む競争政策			
	○	○	○	○	○	○	○	○	技術経営におけるガバナンス・法務戦略			
	○	○	○	○	○	○	○	○	フィンテック戦略			
	○	○	○	○	○	○	○	○	情報アナリティクス			
	○	○	○	○	○	○	○	○	コンセプト創造論			
	○	○	○	○	○	○	○	○	ビジネスモデルイノベーション			
	○	○	○	○	○	○	○	○	人材マネジメント			
	○	○	○	○	○	○	○	○	価値創造			
	○	○	○	○	○	○	○	○	ICTとクラウドビジネス			
	○	○	○	○	○	○	○	○	実践行動経済分析			
	○	○	○	○	○	○	○	○	研究開発マネジメント			
	○	○	○	○	○	○	○	○	ナレッジマネジメント			
	○	○	○	○	○	○	○	○	経営倫理とコンプライアンス			
	○	○	○	○	○	○	○	○	M&Aマネジメント			
	○	○	○	○	○	○	○	○	デジタルトランスフォーメーション			
	○	○	○	○	○	○	○	○	グローバル技術経営論			
○	○	○	○	○	○	○	○	伝統技術と産業集積				
○	○	○	○	○	○	○	○	生産技術マネジメント				
社会連携科目	○	○	○	○	○	○	○	技術戦略	選択	1-2	2	
	○	○	○	○	○	○	○	イノベーションプロセス論				
	○	○	○	○	○	○	○	サービスイノベーション				
	○	○	○	○	○	○	○	リスクマネジメント				
	○	○	○	○	○	○	○	開発プロトタイプ論				
	○	○	○	○	○	○	○	技術価値評価				
演習科目	○	○	○	○	○	○	○	サプライチェーンマネジメント	必修	2	2	
	○	○	○	○	○	○	○	スタートアップ実務家特別講義(寄付講座)				
	○	○	○	○	○	○	○	ファミリービジネス研究(寄付講座)				
	○	○	○	○	○	○	○	代替投資と現代経営(寄付講座)				
	○	○	○	○	○	○	○	技術経営特別講義 A				
演習科目	○	○	○	○	○	○	○	技術経営特別講義 B	必修	2	2	
	○	○	○	○	○	○	○	イノベーション特別講義 A(先端科学技術特別講義)				
	○	○	○	○	○	○	○	イノベーション特別講義 B				
	○	○	○	○	○	○	○	実践CXO・起業家ケーススタディ1				
	○	○	○	○	○	○	○	実践CXO・起業家ケーススタディ2				
	○	○	○	○	○	○	○	実践CXO・起業家ケーススタディ3				
	○	○	○	○	○	○	○	ゼミナールエクササイズ				
	○	○	○	○	○	○	○	ゼミナール1				
○	○	○	○	○	○	○	ゼミナール2					
○	○	○	○	○	○	○	ゼミナール3					
○	○	○	○	○	○	○	ゼミナール4					

主要科目の概要

基盤科目

技術経営入門

技術経営入門は、東京理科大学技術経営専攻の門を開く入門科目です。専攻が提供する専門科目、社会連携科目および演習科目を履修する上での必要な基盤として、教育の全容を含む技術経営全般に関する知識・実務等について学びます。専門職大学院の意義、MOTとMBAの違いや本カリキュラムの特長、グラデュエーションペーパーの位置づけを理解するとともに、容易には解が得られない課題にも挑戦してもらい、グループワーク・グループ発表の練習をします。この科目を通じて、今後2年間、共に学ぶ同級生や教員から刺激を受け、また相互の理解を深め、共同作業の困難と喜びを実感し、実りある学びへと助走することができるでしょう。

マーケティング

技術経営においてマーケティングが果たす役割を3つの観点から学びます。一つ目は企業が顧客満足や顧客経験価値をどう高め、顧客との関係性を構築するかです。二つ目には、いずれの事業においても原則、必要となる販売という機能実現のために、効率的・安定的な商品・サービス提供を行うためのB2C、B2Bのチャネル構築について学びます。三つ目としてデジタル化に伴うEC(電子商取引)やソーシャルメディアの活用を現状を理解した上で、企業が取り組むべき課題を検討します。これらのテーマについて、理論と事例に基づく授業に参加することで、企業経営、事業あるいは個々の学生自身が取り組む研究テーマに応用ができるようになります。

経営戦略

戦略とは、事業活動の設計図であり、設計図を精緻に描くためには、座学で事前に基礎理論を習得しておくことが有効です。製品設計や工程設計の世界では、該当分野の基礎理論をテキスト等で学ばない状態で、設計の実務に着手することは、まずありません。ところが、戦略に関しては、なぜか「いきなり実務」の傾向が普及しております。事業の成功には、技術開発だけでなく、戦略開発も不可欠です。本科目では、実務で戦略を策定する際に、自社や他社の戦略を分析する際に、最低限踏まえておくべき基礎理論を紹介し、そして、単なる紹介にとどまらずに、実際に使ってみる機会をふんだんに提供することを通じて、理論の血肉化を目指します。

ファイナンス

近年、アクティビストファンドやプライベート・エクイティの存在感が拡大し、企業経営における資本市場の重要度が急速に高まりつつあります。特に上場企業は、資本市場の要求する企業価値向上を実現する企業統治を実現する必要に迫られています。本科目では、企業価値に関する基本的なセオリーをファイナンスの観点から学ぶとともに、それを実現する企業統治のあり方について、学術的な視点も取り入れながら議論します。機関投資家、プライベート・エクイティ、CFO経験者などの議論も交えることにより、理論的かつ実践的な知識を修得することを目指します。

科学技術・産業政策

本科目は、科学技術政策および産業政策に関する専門的知識・実務等について学ぶとともに課題解決に向けた実践力を身に付けることを目的としています。あわせて、イノベーションを起こす国家政策の概要や歴史と国際比較などについて学び、それを民間がどのように活用するか理解します。科学技術政策および産業政策がどのように企画・立案・実行されるのか、そのメカニズム、具体的には行政組織、予算、法律、審議会等の仕組みと機能等について基礎知識を身に付けるとともに、それを活用して政策立案過程を疑似体験します。また、実践力を養うために現役の政策担当者とのコミュニケーションを通じて理解の定着を図ることを狙っています。

イノベーションのための財務会計

本科目は、「アカウンティング」の基礎知識をベースとして、イノベーションの観点から財務会計を「戦略的に」活用するための専門的知識を学ぶ科目です。本科目では、まず最適資本構成、日米の会計制度との違いなどを学び、会計制度の保守性・積極性とイノベーションや競争力の関係について学習します。M&Aに関連する税務・会計上の取り扱いを学習し、実務で応用できるようにします。また、実際に財務戦略を実践してきた企業のCFOや、スタートアップ企業に財務戦略をアドバイスしている公認会計士などをゲストスピーカーとして招聘し、ディスカッションを通じて、実務において生じうる課題を解決することができる実践力を身に付けます。

イノベーションを生む競争政策

これまで洋の東西を問わず、競争政策上の事例の大半は、問題とされた企業などが市場の流れを読み誤り、価格設定・事業統合戦略などの失敗に陥ってしまったことが、その真因であったとみられています。したがって、我が国に限らず、米・EU等の競争政策上の事例は、失敗例の宝庫です。こうした事例を明日の成功の母と変えるために、初歩的な基本原則の紹介から始めて、GAFAMなどのプラットフォーム企業が問題とされた事例や最近の政策動向を紹介します。また、当局の幹部などの講義も交えつつ、さまざまな業界で働く学生同士のグループ討論を通じて、CXOに必要な知見を蓄え、新たなイノベーション戦略を生み出すための方策を探ります。

マネジメント総論

マネージャーの仕事の10個挙げてみてください。この質問に対してスラスラと答えられる実務家は、実はあまり多くありません。マネジメントで失敗する主要な原因の一つは、視野狭窄にあります。組織構造の変更が喫緊の課題にもかかわらず、営業関連の施策ばかりに注力し、課題が一向に解消されない現象が、その典型例です。経営学の理論は、マネージャーの仕事のジャンル、各ジャンルにおける選択肢や工夫、各選択肢や工夫の利点と欠点等に関する内容を、俯瞰的かつ体系的に整理する際に役立ちます。本科目ではそれらの基礎理論を網羅的に紹介します。あわせて、紹介した理論を自らの実務や所属組織に当てはめる機会も、ふんだんに提供します。

ビジネスエコノミクス

さまざまな経営課題の迅速な解決に向けて陣頭指揮にあたるにはCXOとして最低限、身に付けるべき経済学的知識が必要になります。どんなビジネス・モデルも、内的・外的な環境を踏まえた明快な経済学的ロジックとデータに基づく検証に因らなければ絵に描いた餅となります。社会・政治的な環境が大きく揺れ動くと、それに伴い国内外のマクロ経済環境はどう動くのか、社内外のさまざまなアクターとの交渉・取引・契約はどのような経済的動機付けに基づいて動いていくのか。実は、こうした課題はここ20年程で経済学がその解法に向けた糸口を明快に提供できるようになってきました。初歩的段階からCXOに必要な段階まで一気に解説します。

専門科目

スタートアップサイエンス

イノベーションを駆動する主体としてのスタートアップへの注目度は急速に高まりつつあります。本科目では、スタートアップの成功確率を高めるプロセスを理解するとともに、起業家とのディスカッションを通じ、起業家精神と事業モデルの目利き力を養うことを目指します。また、学生自ら起業アイデアを立案・発表・議論することを通じ、起業の現実を体験し、自ら起業によりイノベーターとなる力を養います。起業を科学的に分析し、成功率を高める本科目は、最もMOTらしい科目の一つといえます。理科大発ベンチャーに投資し育成を図る東京理科大学イノベーションキャピタルと協働する、臨場感あふれる科目です。

標準化戦略

本科目は、標準化を戦略的に活用するための専門的知識・実務等について学ぶとともに課題解決に向けた実践力を身に付けることを目的としています。イノベーションの過程では、さまざまな標準が必要とされます。それを踏まえ、オープン・クローズ戦略、デジュール・デファクト標準等の基本的理解から、JIS等の国内標準に加えてISO/IEC等国際標準の仕組み、認証・認定まで視野に入れた講義を行います。また、国際標準化活動に豊富な経験を持つゲストを招き、国際標準化、より広くはルールメイキングに関して実践的な活用法について理解を深めます。本科目の履修を通じて、標準化戦略の本質を理解し、企業戦略として標準化を活用できることを狙っています。



主要科目の概要

フィンテック戦略

MOTの学生にとって、金融分野における最新技術の現状を学ぶことは極めて重要であるといえるでしょう。本科目「フィンテック戦略」は、フィンテックについて最新の知識を得るだけでなく、これを企業戦略にどう応用するか、その社会への影響を考えることを目的としています。前半では、日銀や金融庁、あるいはビジネスの現場でフィンテックの最前線で活躍する担当者をゲストスピーカーとして招き、金融の基礎とフィンテック動向を学びます。また後半では、金融工学・クオンツを学び、機関投資家が行う投資戦略の構築に関連する演習(ブルームバーグ端末を用いたシミュレーション)を行います。

コンセプト創造論

企業が厳しい競争に勝ち抜くためには、顧客や社会が共感する新しいビジネスコンセプトを創造していかなければなりません。世の中にまだ存在しない新しい商品、新しいサービス、新しいビジネスモデル、新しい販売・マーケティングの仕組み、新しい生産方式、新しいマネジメント方法など、経営のあらゆる場面で新しいコンセプトを創造することが求められています。

本講義では、多様なコンセプト創造の事例を通してその本質に迫り、良いコンセプトとは何か、コンセプトを創造し実現するために、情報収集・プロトタイプング・開発・事業化の各プロセスはどうあるべきかなど、基本的な考え方とスキルを身に付けることを目標とします。



情報アナリシス

本科目では、グラデュエーションペーパーの作成に関して、データを扱う分析を行うための、最低限かつ実践的な知識と能力を修得することを目的としています。具体的には、統計分析の基礎から分散分析、重回帰分析、実務的に有効なアンケート調査の設計・分析の方法論などについて、個人ワーク、グループ演習を交えて学びます。さらに、ネットワーク分析を用いた演習や、ディールングルームにてブルームバーグ端末を使った演習も行います。分野によっては、外部からゲストスピーカーを講師としてお招きし、実際のビジネスにおける分析例などを学びます。

ビジネスモデルイノベーション

ビジネスモデルにもイノベーションは起こっています。特に、デジタル時代と呼ばれる今、デジタルテクノロジーによる破壊的なイノベーション、いわゆるデジタル・ディスラプションがさまざまな分野で生まれています。「ビジネスモデル」は持続的に競争優位を保つために重要であることが改めて認識され、革新的なビジネスモデルが生まれ、業界や企業が大きく変化してきています。

本講義では、ビジネスモデルとその変革について、具体的な事例とともに体系を学びます。ビジネスモデルの体系的な理解をもとに、新しいビジネスモデルを創造する構想力を養い、イノベーションの実現に役立つ示唆を得ることを目標とします。

人材マネジメント

近年企業の経営資源としての人材を重視する動きが強まり、さらに従業員を資本として捉えその価値を最大限に引き出すことで、中長期的な企業価値向上につながる人的資本経営の考え方が広まっています。そこでまず経営戦略と連動する人材マネジメントのあり方を学びます。また人への投資は生産性向上だけでなく、イノベーションの推進に資するものであることから、技術経営との関連を踏まえる形で、人材マネジメントおよび組織、リーダーシップ、人材育成とキャリアの観点を検討します。

さらに人材に関わる人事評価、報酬管理などの具体的な施策の概要を学ぶことで、企業のCXOを目指す学生に必要な人材マネジメント上の知識を修得します。

社会連携科目

イノベーション特別講義A(先端科学技術特別講義)

技術系、文系、芸術系など、多様なバックグラウンドを持つMOTの社会人学生が、最先端の科学技術研究に触れ、具体的なケースを議論してイノベーションの理解を深める科目です。具体的には、東京理科大学を代表する研究者6~7人から、最前線の研究動向の講義を受け、研究者としてのイノベーターの実態や、実用化に向けてのさまざまな課題を共有します。

講義では、先端科学技術の内容を俯瞰しつつ、むしろその実用化や社会へのインパクトという観点を中心に、質疑応答や討論を行います。この科目は社会連携科目であり、MOTが理科大全学と連携を深め、かつ、社会人学生を通して、理科大の研究者と企業をつなぐことも目的としています。



演習科目

実践CXO・起業家ケーススタディ

本科目では、大手企業の経営者、自らベンチャー企業を起こした起業家、不振企業の立て直しや再生を行った経営者などの方々をゲスト講師として招聘し、自身の体験に基づく講義(約60分)の後に、学生との質疑応答や意見交換(約60分)を行います。講師の実績を支えた実践思考と行動についての理解を徹底的に深める科目です。

CXOや起業家を目指す学生が、イノベーションを起こしてきた経営者や起業家などの経験を直接聞くことにより、これまで学んできた技術経営に関する知見を実践知として再構築し、そこから自らの企業や自身の現状を踏まえた「自分事」の課題として、今後の取り組みに活かしていくことを狙いとしています。

ゼミナール1~4

本学MOTでは、学生全員が専任教員の研究室(ゼミ)に所属し、技術経営に関連する研究を行い、その成果をグラデュエーションペーパー(いわゆる修士論文に該当)へと仕上げていきます。本科目は学期ごとに1~4に分かれていますが、2年生が年間を通して履修する必修科目であり、学生と教員が議論を重ねながら、ペーパーの作成を進めていきます。担当教員のもとで、実践の理論化、企業・産業分析、各種インタビュー調査などを行うことにより、課題の明確化、仮説構築、課題解決案の検討を行います。

ゼミナール2の終わりには中間発表会、ゼミナール4の終わりには最終審査発表会が専攻内で開催され、そこで学生は研究の成果を発表します。

ゼミナールエクササイズ

本科目は、1年生が後期に必修で履修する演習科目です。本学MOTでは、学生全員が技術経営に関連する研究を行い、その成果をグラデュエーションペーパー(いわゆる修士論文に該当)へと仕上げていきますが、まず1年目後半からこの科目を通じて学生と教員が議論をスタートさせて、それぞれの学生のグラデュエーションペーパーの構想を検討します。

1年生はまず後期の冒頭で、自分が参加する専任教員の研究室(ゼミ)を選び、そこでの検討や議論を通じて自身が目指す方向性や着眼点を整理します。そして自身が2年生で取り組む研究計画の骨子をその時点の成果として作成し、グラデュエーションペーパー作成計画書としてまとめます。



東京理科大学大学院
経営学研究科技術経営専攻の最終成果物

グラデュエーションペーパー

「ゼミナールエクササイズ」「ゼミナール1・2・3・4」では専任教員のもと、実践の理論化、企業調査活動、各種インタビュー、フィールドワーク等の手法を用い、最終成果物であるグラデュエーションペーパー(GP)を作成します。GPは、学生個々の課題に応じて「技術経営論文」および「ビジネス企画提案」に区分され、その執筆を通して本学MOTでの学修成果を「見える化」とともに、社会(産業界)の要請に応えることを目指します。



技術経営論文

- 最終審査発表会前に学会等で発表、論文要旨は原則公開(専攻HP公開予定)。

ビジネス企画提案

- 「起業案(計画)」、「新規事業提案」、「プロトタイプ」など。本文は非公開。教員(主査)と当該学生の企業やその他が十分に意見交換を行い、企画提案を実現する。

グラデュエーションペーパー作成に関係する教員の研究領域

社会			イノベーション創出政策・競争政策			
産業					ガバナンス、SDGs 経営倫理	
企業		技術経営一般実践		イノベーション経営モデル		
事業	R&D マネジメント・組織戦略実践					
チーム		起業・新規事業・事業化戦略		ものづくり、DX、金融工学、技術マーケティング実践		
個人	妄想、コンセプト実践					
	アイデア/発明	開発/実用化	事業化	収益化	多角化/再編	再成長/EXIT

過去のグラデュエーションペーパーのテーマ例(抜粋)

研究領域	題目	区分
起業、新規事業、事業化戦略	実装大変革期にEMS業界が対応すべき技術革新と新たなビジネスモデル提案 ディスアグリゲーションモデルを適用したニッチ事業の成長戦略 ～分解と再編成で、成長と新価値を創造する条件とメカニズムの分析～ 何故、プリント配線板産業は、常にリフレッシュできてきたのか?	ビジネス企画提案 ビジネス企画提案 ビジネス企画提案
コンセプト創造	アイデアの流れを変える ～人と人をつなぐリーダーシップ～	技術経営論文
R&Dマネジメント、組織戦略	技術資産の特徴から見る研究開発生産性の決定要因について イノベーションを誘発しうる組織のナレッジマネジメントに関する研究 イノベーション型CTO は、業界構造、ビジネスモデルをも変革し、成長させる 化学素材メーカーにおける継続的新製品創出のための組織変革	技術経営論文 技術経営論文 技術経営論文 ビジネス企画提案
技術経営一般	家庭用食品メーカーの業務用ビジネスへの適応 ビジネスモデル構築を起点とした新事業への資源吸引 ～開発ミドルが果たすべき意外な責務～ ESG投資環境下での設備設計者の価値	ビジネス企画提案 ビジネス企画提案 技術経営論文
イノベーション創出政策、競争政策	公的研究機関が成果の事業化を促進するための要素と新たな促進手段の検討 国内年金を持続可能な運用へ導く「金融教育」	技術経営論文 技術経営論文
ものづくり、DX、金融工学、技術マーケティング	J-REITにおける保有物件の持続的価値向上に向けた技術的評価手法の研究 STAMP/STPAを用いたマリン事業のリスクアセスメント AIを利用した小規模M&Aマッチングプラットフォーム 半導体パッケージおよびチップボンダーの価値創造	技術経営論文 ビジネス企画提案 ビジネス企画提案 技術経営論文
イノベーション経営モデル	がん臨床研究開発組織におけるリーダーシップに関する考察 総合建設業におけるライフサイクルを通じた新たなビジネスモデルの提案 アパレル産業 循環経済転換のためのIoTによる新たなエコシステムの提案 未来デザインにもとづくイノベーション創出の組織知化方法論	技術経営論文 ビジネス企画提案 ビジネス企画提案 技術経営論文
ガバナンス、SDGs、経営倫理	中期経営計画の現状分析と統合思考を反映した開示方針の考案 教育格差を是正する ～人生を豊かにするLINEQモデルを活用したビジネス計画～	技術経営論文 ビジネス企画提案

一部の題目は副題などを省略して表記している場合があります。

グラデュエーションペーパー作成の道のり(春入学の場合)



教員一覧

2024年10月1日現在

専任教員（2025年度予定）

青木 英彦 教授
Hidehiko Aoki

主な担当科目
・スタートアップサイエンス
・代替投資と現代経営

神戸大学経営学部卒業。米国Duke大学Fuqua School of BusinessにてMBA取得。神戸大学大学院経営学研究科経営学専攻博士後期課程修了 博士(経営学)。(株)野村総合研究所に入社後、野村証券インターナショナル(米国ニューヨーク市)、ゴールドマン・サックス証券(株)、メリルリンチ日本証券(株)、野村証券(株)にて小売・EC担当証券アナリスト業務に従事。2020年9月より現職。産業構造審議会流通部会、製・配・販連携協議会などの委員を歴任。日本小売業協会CIO研究会ステアリングコミティ委員。同流通サプライチェーン政策研究会メンバー。2021年12月より加藤産業(株)社外取締役、2023年6月より(株)ワールド社外取締役。

井上 悟志 教授
Satoshi Inoue

主な担当科目
・科学技術・産業政策
・標準化戦略

東京大学工学部航空学科卒業。1993年東京大学大学院工学系研究科修士課程修了。同年通商産業省(現経済産業省)入省。産業技術政策局基準認証政策課工業標準調査室長、製造産業局自動車課電池・次世代技術・ITS推進室長、資源エネルギー庁電力・ガス事業部電力基盤整備課電力需給・流通政策室長、製造産業局素材産業課革新素材室長等を歴任。2021年7月より本専攻嘱託教授に就任し、2024年1月より専任教員に就任。

諏訪園 貞明 教授
Sadaaki Suwazono

主な担当科目
・マクロ・ミクロエコノミクス
・技術経営におけるガバナンス・法務戦略

慶應義塾大学経済学部卒業、米国Fletcher法律外交大学院修了。日本銀行入行後、調査統計局、国際局、発券局等で、景気・国際収支予測、国際機関との連携等に係る作業に従事。1995年、公正取引委員会に転職。同委や出向先の経済産業省、内閣府・内閣官房で所管する予算策定・法令等の改正作業にも従事。日EU経済連携協定、TPP、RCEP等の協定の条文交渉に携わったほか、G7競争当局間での「競争とデジタル経済」に関する共通理解の策定等に当たった。2022年より現職。

田村 浩道 教授
Hiromichi Tamura

主な担当科目
・イノベーションを生む財務戦略
・フィンテック戦略

早稲田大学大学院理工学研究科修了。(株)野村総合研究所企業調査部に入社、その後、野村証券(株)にてエクイティ・リサーチ部チーフ・ストラテジスト、クオンツリサーチ部長を務めた後、2018年よりインデックスの構築と管理等を行うFTSE Russellにてアジア・パシフィックインベストメントリサーチ・ヘッドを務める。証券アナリストジャーナル編集委員。1999年から2000年まで、UCLAアンダーソンスクールにて客員研究員。2021年度より本専攻非常勤講師、2022年9月より現職。

岸本 太一 講師
Taichi Kishimoto

主な担当科目
・海外展開基礎理論
・経営理論概要

一橋大学商学部卒業、同大学院商学研究科修士課程研究者養成コース修了、同大学院商学研究科博士後期課程修了 博士(商学)。一橋大学大学院商学研究科特任講師、東京大学ものづくり経営研究センター特任助教、敬愛大学経済学部准教授を経て、2014年本学イノベーション研究科講師に就任し、2018年4月より現職。2021年より産業能率大学大学院総合マネジメント研究科(MBA)兼任教員を兼任。その他企業における研修講師も多数担当。著書では『中小企業の空洞化適応(岸本太一・糸野博行編著、同友館)』により第39回中小企業研究奨励賞準賞(経営部門)等を受賞。2022年より日本経営学会誌編集委員。

小林 憲司 教授
(みなし専任)
Kenji Kobayashi

主な担当科目
・実践M&A戦略

東京大学文学部社会心理学科卒業。公認会計士。日米で監査、税務業務を経験後、1997年よりM&A等の取引支援業務に従事し、2001年より新日本アーンストアンドヤング(株)にてコーポレートファイナンス部担当取締役パートナー、2005年よりアーンストアンドヤング・トランザクション・アドバイザー・サービス(株)にてリストラクチャリング部門担当マネージング・ディレクターを歴任、2007年よりピバルコ・ジャパン(株)代表取締役就任。日本公認会計士協会IVSC対応専門委員会等専門委員。2021年4月より本専攻非常勤講師として実践M&A戦略の講義を担当、2023年4月より現職。

中山 裕香子 教授
Yukako Nakayama

主な担当科目
・イノベーションを生むデザイン・デジタル戦略
・経営戦略とマーケティング

慶應義塾大学理工学部電気工学科卒業。同大学院理工学研究科電気工学専攻修士課程修了。(株)野村総合研究所において、放送・通信産業や電機産業における事業戦略立案、マーケティング戦略立案、新規事業立ち上げ支援などのプロジェクトに従事。2004年から2008年までNRI-Americaに勤務し、米国の通信・メディア産業に関する調査研究を実施。日本に帰任後は、デジタル化で大きな変革期を迎えたメディア産業や小売・流通産業へのコンサルティングプロジェクトを担当。2021年4月より現職。

日戸 浩之 教授
Hiroyuki Nitto

主な担当科目
・技術経営マーケティング
・アドバンスドリーダーシップ

東京大学文学部社会学科卒業、同大学院経済学研究科修士課程修了。(株)野村総合研究所入社、コーポレートイノベーションコンサルティング部グループマネージャー、未来創発センター上席コンサルタント等として、マーケティング戦略・事業戦略の立案、将来社会展望や生活者の意識・行動の分析などに関わるコンサルティング業務に従事、また北陸先端科学技術大学院大学客員教授を兼務。2019年4月に本専攻嘱託教授(みなし専任)に就任し、2020年4月より現職。『デジタル資本主義』(共著、東洋経済新報社)により第28回大川出版賞受賞。

教員一覧

2024年10月1日現在

非常勤教員

岩澤 誠一郎 講師

Seiichiro Iwasawa

名古屋商科大学大学院
マネジメント研究科 教授

担当科目 実践グローバル行動経済分析



早稲田大学政治経済学部経済学科卒業。MBA(ボストン大学)、Ph.D.(経済学、ハーバード大学)。(株)野村総合研究所入社後、同研究所や野村證券(株)で証券アナリスト、数量分析アナリスト、日本株ストラテジスト業務に従事。2012年から現職。専門は行動経済学、行動ファイナンス。

内海 京久 講師

Kyohisa Uchiumi

高知工科大学
経済・マネジメント学群 教授

担当科目 ものづくり産業特別講義



東京大学工学部物理工学科卒業。本学大学院イノベーション研究科技術経営専攻専門職学位課程修了、同博士後期課程修了。博士(技術経営)。富士フイルム(株)にて、高機能フィルムの生産技術の研究開発に従事し、多岐にわたる新商品の開発や製造導入を経験。2024年から現職。専門は技術経営、イノベーション、経営史。著書に「イノベーション実現の条件」(共編著・文真堂)。学術論文、学会発表多数。産業能率大学非常勤講師。

岡田 将稔 講師

Masatoshi Okada

株式会社三菱UFJ銀行
ウェルスマネジメントコンサルティング部
ファミリーオフィス室 室長

担当科目 ファミリービジネス研究



1997年、現三菱UFJ銀行入行。2021年、ファミリーオフィス室長。2018年、神戸大学大学院経営学研究科博士後期課程修了 博士(経営学)。2022年より神戸大学大学院経営学研究科客員教授を務める。専門は管理会計、ファミリービジネス研究。

佐々木 圭吾 講師

Keigo Sasaki

福山女学園大学
現代マネジメント学部 教授

担当科目 ことづくり産業特別講義



九州大学経済学部卒業。一橋大学大学院商学研究科修士課程修了、同博士後期課程満期退学、博士(経営学)。松下電器産業(株)入社後、海外市場マーケティング業務、コンピュータの輸出業務等に従事。横浜市立大学商学部助教授、東京理科大学大学院経営学研究科技術経営専攻教授等を経て現職。専門は経営組織論、ナレッジマネジメント論。

高橋 文郎 講師

Fumio Takahashi

学校法人長沼スクール理事長、
青山学院大学 名誉教授担当科目 イノベーションを創出する
組織戦略

東京大学教養学部教養学科卒業。(株)野村総合研究所入社後、1984年より(株)野村マネジメント・スクールに勤務。この間にペンシルベニア大学ウォートン・スクールMBA取得。CSKベンチャーキャピタル取締役、UAMジャパン・インク取締役等を歴任。中央大学経済学部教授を経て、青山学院大学国際マネジメント研究科教授に就任。専門は企業財務、証券投資、企業倫理など。2007年から2015年まで、同研究科長を務める。

中川 晃 講師

Akira Nakagawa

静岡文化芸術大学
デザイン学部デザイン学科 准教授

担当科目 価値創造



東京藝術大学美術学部建築科卒業。東京理科大学大学院経営学研究科技術経営専攻修了。日本大学大学院芸術学研究科芸術専攻博士課程修了。博士(芸術学)。一級建築士。大学卒業後、日本放送協会(NHK)、オリエンタルランドにて17年間におよび実務に携わる。在職中に大学院に入学、大学院在籍中に大学教員となる。城西国際大学メディア学部を経て2022年から現職。専門はデザイン学。

中原 隆志(戴志堅) 講師

Takashi Nakahara

キャセイ・トライトック株式会社 代表取締役社長、
ザインハイパーデータ株式会社 代表取締役会長

担当科目 ICTとクラウドビジネス



中国政府派遣一期生として来日、東京大学大学院電子工学博士課程修了(工学博士)。松下電送システム(株)に入社。FAX通信ソフトウェアおよびデジタル通信の研究開発に従事した後、中国市場開拓のマーケティング業務を経て、1995年キャセイ・トライトック(株)を創業。2011~13年NEC中国・移動端末事業部総経理に出向、現在は第一線の経営者としてIoT(AIoT)デバイスとデータ/AIサーバーおよび関連ソリューションの事業に注力している。2019年から非常勤講師。

上席特任教授

Christina L. Ahmadjian 上席特任教授

Christina L. Ahmadjian

一橋大学 名誉教授
北海道大学 理事(非常勤)

ハーバード大学卒業/スタンフォード大学ビジネス・スクール経営学修士課程修了。カリフォルニア大学バークレー校ハース・スクール・オブ・ビジネスでPh.D取得。コロンビア大学ビジネス・スクール助教授を経て、一橋大学大学院国際企業戦略研究科教授に就任。住友電気工業(株)、アサヒグループホールディングス(株)、日本電気(株)、日本特殊陶業(株)、(株)東京大学エッジキャピタルパートナーズの社外取締役も務める。

新井 ゆたか 上席特任教授

Yutaka Arai

消費者庁長官

東京大学法学部卒業。農林水産省入後、ハーバード大学国際問題研究所研究員、産業連携課長、山梨県副知事、食料産業局長、消費・安全局長、農林水産審議官などを経て2022年7月より現職。

白見 好生 上席特任教授

Yoshio Usumi

LINEヤフー株式会社 社外取締役

慶應義塾大学大学院工学研究科修了。(株)野村総合研究所に入社後、2010年同社執行役員経営企画、コーポレートコミュニケーション、法務・知的財産担当 兼 経営企画部長、2018年同社代表取締役専務執行役員コーポレート部門管掌。2019年にZ ホールディングス(株) 社外取締役(独立役員)監査等委員に就任し、2020年からは同社社外取締役(独立役員)常勤監査等委員を務める。2023年10月以降、社名変更に伴い現職に就任。

小倉 良 上席特任教授

Ryo Ogura

コンチネンタル・オートモーティブ株式会社 取締役 副会長
日清紡ホールディングス株式会社 シニアアドバイザー
(元 新日本無線株式会社 代表取締役会長)

東北大学工学部卒業。(株)第二精工舎(現:セイコーインスツル(株))を経て、新日本無線(株)(現:日清紡マイクロデバイス(株))入社後、2011年に同社代表取締役社長、2018年に同社会長に就任。また、2016年から2022年に日清紡ホールディングス(株)取締役常務執行役員を兼務。現在は、コンチネンタル・オートモーティブ(株)副会長、日清紡ホールディングス(株)シニアアドバイザーを務める。

梶本 一典 上席特任教授

Kazunori Kajimoto

CKD株式会社 代表取締役会長

同志社大学工学部卒業。CKD(株)入社後、同社、営業本部長、代表取締役社長、会長を経て、現在は、取締役会長コーポレート役員取締役会議長を務める。

小池 淳義 上席特任教授

Atsuyoshi Koike

Rapidus株式会社 代表取締役社長

早稲田大学大学院理工学研究科修了。東北大学大学院にて工学研究科電子工学専攻・工学博士号取得。(株)日立製作所、トレンディテックノロジーズ(株)を経て、サンディスク(株)の代表取締役社長を務める。2018年より(株)HGSTジャパン、およびウエスタンデジタルジャパンの代表取締役社長、ウエスタンデジタルジャパン プレジデントに就任。2022年11月より現職。著書『人工知能が人間を超えるシンギュラリティの衝撃(PHP研究所)』。

小長 啓一 上席特任教授

Keiichi Konaga

島田法律事務所 弁護士
元 通商産業省 事務次官

岡山大学法文学部卒業。通商産業省(現:経済産業省)に入省。通産大臣秘書官、総理大臣秘書官として田中角栄氏を支える。通商産業事務次官、アラビア石油(株)取締役社長、AOCホールディングス(株)取締役社長を経て、2007年に弁護士登録し、島田法律事務所所属。

佐々木 繁 上席特任教授

Shigeru Sasaki

共創テックラボ 代表
カナダ国立研究機構(National Research Council Canada) 在日事務所長
元 株式会社富士通研究所 代表取締役社長

岩手大学大学院工学研究科修了。富士通に入社し、富士通研究所に配属。数々の先進的な動画処理システムの実用化研究開発に携わり、2004年には世界初非接触型手のひら静脈認証技術を発表。オーム技術賞、情報処理学会業績賞、IAPR Fellowに選出。

教員一覧

上席特任教授

佐藤 明 上席特任教授

Akira Sato

株式会社バリュークリエイティブ パートナー

野村證券グループ入社、以後同社証券アナリスト。日経金融新聞(現:日経ヴェリタス)アナリストランキングでは、29歳で企業総合部門で1位(1995年)、1994~2000年造船・プラント部門7年連続第1位。IT業界に特化した投資調査会社で調査部長を務めた後、(株)バリュークリエイティブ設立。デジタルハリウッド大学でコーポレート・コミュニケーション論准教授、海外資産運用会社、レオス・キャピタルワークス(株)、コモンズ投信(株)取締役、ソケットのなどの社外取締役を経験。2019年度~2022年度まで本学MOT非常勤講師を務める。

澄田 誠 上席特任教授

Makoto Sumita

株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド 取締役会長
株式会社ニコン社 外取締役
元TDK株式会社 取締役会長

米国ジョージワシントン大学国際関係大学院修了。(株)野村総合研究所を経て、イノテック(株)代表取締役社長、同社代表取締役会長、INNOTECH FRONTIER, Inc. 代表取締役会長、TDK(株)取締役会長等を歴任。現在は、(株)ミンカブ・ジ・インフォノイド 取締役会長、(株)ニコン取締役を務める。

高田 修三 上席特任教授

Shuzo Takada

富士フイルム株式会社 執行役員
元 経済産業省 製造産業局長

東京大学経済学部卒業、通商産業省(現:経済産業省)に入省。大臣官房審議官(製造産業局担当)にて航空宇宙産業、防衛装備品等を担当。貿易経済協力局貿易管理部長、内閣府宇宙開発戦略推進事務局長等を歴任した後、2020年7月まで製造産業局長を務める。

高橋 文郎 上席特任教授

Fumio Takahashi

学校法人長沼スクール 理事長
青山学院大学 名誉教授

東京大学教養学部教養学科卒業。(株)野村総合研究所入社後、1984年より(財)野村マネジメント・スクールに勤務。この間、1982年にペンシルベニア大学ウォートン・スクールMBA取得。CSKベンチャーキャピタル(株)取締役、UAMジャパン・インク取締役等を歴任。2001年中央大学経済学部教授を経て、2004年より青山学院大学国際マネジメント研究科教授に就任。専門は企業財務、証券投資、企業倫理など。2007年から2015年まで、同研究科長を務める。2023年青山学院大学名誉教授、2024年学校法人長沼スクール理事長就任。

竹田 晋浩 上席特任教授

Shinhiro Takeda

医療法人 社団康幸会かわぐち心臓呼吸器病院理事長・院長
NPO法人 日本ECMOnet 理事長

日本医科大学卒業、同大学大学院医学研究科修了(医学博士)後に、同大学助手、講師、准教授を経て、2014年に日本医科大学付属病院外科系集中治療科特任教授に就任。2015年に医療法人社団康幸会かわぐち心臓呼吸器病院理事長・院長に就任。また、新型コロナウイルス感染症拡大を機に、NPO法人日本ECMOnetを設立し、同理事長を務める。

寺澤 達也 上席特任教授

Tatsuya Terazawa

一般財団法人日本エネルギー経済研究所 理事長
元 経済産業省経済産業審議官

東京大学法学部卒業/ハーバード大学ビジネススクールでMBAを取得。通商産業省(現:経済産業省)に入省後は機械情報産業局総務課、公正取引委員会事務局経済部調整課、内閣総理大臣秘書官等を経て、商務情報政策局長に就任。2018年から2019年にかけて、経済産業省経済産業審議官を務める。

鳥谷 浩志 上席特任教授

Hiroshi Toritani

ラティス・テクノロジー株式会社 代表取締役社長

東京大学理学部情報科学科卒業。(株)リコー入社、同社ソフトウェア研究所にて『ソリッドカーネル DESIGNBASE』の研究開発に従事し、その後ビジネス化を指揮。1989年に東京大学より理学博士号取得。1997年ラティス・テクノロジー(株)技術統括部長に就任し、3Dデータを活用した製造業の開発業務の支援などに従事。1999年に同社 代表取締役社長に就任。内閣府研究開発型ベンチャープロジェクトチーム委員、東京都中小企業振興対策審議会委員など歴任。著書は「製造業のDXを3Dで実現する」(幻冬舎)、「3D Manufacturing Innovation」(Springer)など多数。

中島 茂 上席特任教授

Shigeru Nakajima

中島経営法律事務所 代表弁護士

東京大学法学部卒業。司法研修所を経て弁護士として活躍を始め、中島経営法律事務所を設立。(株)日本証券クリアリング機構の社外監査役や、(株)リクルートの社外監査役を歴任。2006年から2011年の日経ビジネス弁護士ランキング(コンプライアンス部門、危機対応部門)で、5年連続1位を記録する。

生天目 章 上席特任教授

Akira Namatame

防衛大学校名誉教授

防衛大学校卒業/スタンフォード大学大学院修士課程および博士課程Ph.D取得。防衛大学校では、ニューラルネットワークやマルチエージェント、複雑ネットワーク、ゲーム理論などの研究に取り組む。1996年には防衛大学校情報工学科教授を務める。

濱田 初美 上席特任教授

Hatsumi Hamada

立命館大学 客員教授
元 学校法人立命館 理事補佐(兼)特命教授
元 株式会社ソニー-中村研究所 取締役

山一証券より会計士事務所を経てソニー商事入社。1981年ソニー(現:ソニーグループ)へ転籍。構造改革・M&A・半導体・CEOサポートなど、25年にわたり経営戦略に携わる。2006年立命館大学大学院経営管理研究科開設時に教授就任、2007年同副研究科長。2017年学校法人立命館 理事補佐(兼)特命教授。濱田ゼミから上場企業役員7名を輩出。2022年4月から現職。

Robert Alan Feldman 上席特任教授

Robert Alan Feldman

株式会社モルガンスタンレーMUFJ証券
シニアアドバイザー

イェール大学卒業/マサチューセッツ工科大学博士課程修了。連邦準備銀行、チェース・マンハッタン銀行、国際通貨基金、ソロモンブラザーズアジア証券 日本主任エコノミストなどを経て、1998年よりモルガンスタンレー証券(現モルガンスタンレーMUFJ証券) 主席エコノミストを務め、現在はシニア・アドバイザー。東京海上ホールディングス(株)社外取締役も務める。2018年度から2021年度まで、本学大学院経営学研究科技術経営専攻(MOT)教授(みなし専任)2022年度、2024年度は上席特任教授。

藤末 健三 上席特任教授

Kenzo Fujisue

元 参議院議員

インド工科大学ハイアラバード特任教授、韓国先端科学技術院特任教授、ミュンヘン工科大学客員教授、オクスフォード大学上席客員研究員。東京工業大学卒業、経済産業省入省。MIT経営大学院およびハーバード大学行政学大学院修了、東京工業大学博士号(学術)、早稲田大学博士号(国際関係論)。参議院議員3期(2004-2022年)、参議院総務委員長、総務副大臣を歴任。

藤野 英人 上席特任教授

Hidetoshi Fujino

レオス・キャピタルワークス株式会社 代表取締役会長 兼 社長
CIO(最高投資責任者)

早稲田大学法学部卒業。1990年から野村投資顧問(株)(現:野村アセットマネジメント(株))、ジャーディンフLEMING投信・投資顧問(株)(現:JPモルガン・アセット・マネジメント(株))、ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメントを経て、レオス・キャピタルワークス(株)を創業。CIO(最高投資責任者)に就任。2015年より現職。

山口 明夫 上席特任教授

Akio Yamaguchi

日本アイ・ピー・エム株式会社
代表取締役社長執行役員

1987年に日本アイ・ピー・エム(株)に入社。2005年に米国でIBM本社の役員補佐を務める。2017年に取締役専務執行役員 グローバル・ビジネス・サービス事業本部長に就任。2019年に日本アイ・ピー・エム(株) 代表取締役社長に就任。2020年に(一社)「企業アクセシビリティ・コンソーシアム(ACE)」代表理事に就任。2021年に経済同友会 企業経営委員会の委員長に就任。2022年4月に経済同友会 副代表幹事に就任。2023年4月に経済同友会企業変革委員会委員長および経済・財政・金融・社会保障委員会委員長に就任。2024年6月に、東京都立産業技術大学院大学 運営諮問会議委員長に就任。

修了生・在学生の声

2024年4月入学

宮川 正平 さん

株式会社トプロン
スマートインフラ事業本部
スマートインフラプロダクト
マネジメント部 シニアエキスパート

イノベーション創出を目指す

マネタイズの視点を獲得し

在学生

Schedule
一週間の過ごし方**日** 午前は子供と遊んで過ごし、昼食を作ります。その後、自宅でレポート作成。内容によっては、終日かけて取り組むことも。**月** 授業が無いため仕事を集中して片づけます。ここでため込むと、一週間の計画に狂いが生じてくるので重要な一日になります。**火** 定時で勤務を終え、6時限と7時限の授業に参加。業務が切り上げられない時には、オンラインにて社内から受講します。**水** 勤務後、オンラインで集まりグループワーク。時には議論が白熱し、帰宅が遅くなることも。共に過ごす仲間は最大の財産です。**木** 週末の授業に向けて資料に目を通します。事前課題は、論理的な思考と言葉による表現が求められるので、しっかり読み込みます。**金** 授業後は、不定期開催の「8時限」に臨むことも。その場合、近くの居酒屋で他流試合の続きが繰り広げられます。**土** 朝から夕方まで授業に参加。まだゼミが始まっていないので、授業後は基本的に帰宅し、家族とゆっくりと過ごします。ゲストスピーカーや社会人学生との
まるで総合格闘技のような学び

前職では大型印刷機から小型複合機までさまざまな製品の機械設計・開発に従事し、現在は測量用機器の開発をしています。開発組織は製品化をミッションとし、直接、要素技術を生み出すことはしてきませんでした。私たちの打ち出す開発提案に足りないと感じていたのが、経済的価値を生むための視点でした。理科大MOTへの入学を決めたのは、そのための知見を得るためです。入学以来、感じているのは、多様な背景をもった社会人学生同士による「総合格闘技のような学び」です。加えて、『スタートアップサイエンス』という実践型の科目では起業における生みの苦しみを体験し、衝撃的なほどのエネルギーを持つ3人のゲストスピーカーから成功の要因を学びました。このような方たちと議論を展開することで、自分の業務だけでは培えない学びが得られます。他流試合の中で新たな知を吸収する機会を提供してもらえる環境、それこそが本学の“財”だと思います。

技術者こそが備えるべき
マネタイズの視点を修得するために

来年度執筆するグラデュエーションペーパーでは、“問い”をどう立てるかが重要と聞いています。日本のものづくりにおける開発力低下の原因と解決法を探りつつ、広い視野で問題意識を持ち、論文に反映させたいと思っています。それを踏まえて、将来的には新規事業の立ち上げを提案することが目標です。「技術パラダイム転換」という言葉がありますが、やはり一人の技術者としては、技術進化によって画期的な価値の創出を実現してみたいと思います。ただし、どんなに素晴らしい技術であっても、経済的価値が伴わなければ事業化はありえません。なぜなら、マネタイズこそが企業経営の最重要課題だからです。その点、本学の学びは、技術者から抜け落ちてしまいがちな“開発技術のマネタイズ”の視点を加えてくれます。実務で技術を磨きながら、本学でマネタイズの視点を身に付け、総合的な技術マネジメントで自社のイノベーション創出をリードするつもりです。

2023年9月入学

渡辺 順子 さん

グラクソ・スミスクライン株式会社
専門領域営業
関東リージョン関東エリア
課長

理論と熱を受け取る場

より高みへ登るために必要な

在学生

Schedule
一週間の過ごし方**日** 朝、開店と同時に近所のコーヒー店で課題に取り組む。夕方、店を変えてまた課題。提出した瞬間が最高!でもあと3つある……**月** 勤務。私のルール、「就業時間内は仕事に集中。休憩時間でも一切課題はしない!」限られた時間で集中することも良い練習です。**火** 4時起床。課題に取りかかる。出張。21時からオンライン英会話で息抜き。木曜朝提出の課題が終わっていない(汗)。**水** 5時起床。『海外展開』の課題に着手。時間がないから集中してやらざるをえない状況。夜、授業後には学友と焼き鳥屋さんへ。**木** 出張。滞在先のホテルで『ゼミナールエクササイズ』の課題に取り組む予定が、疲れ果てて22時に就寝。**金** 5時から7時まで課題に集中。勤務後、コーヒー屋に閉店まで滞在。明日の授業のディスカッションテーマに頭を悩ませる。**土** 9時から経営戦略・マーケティングの授業。午後はゼミにどっぷり、20時までMOT漬け。終わったらみんなで神楽坂の街へ。ほっとひと息。自分の経験を強固なものにする
理論的なエビデンスを求めて

製薬会社に入社後、医薬品の情報提供を通して自社製品を医師から患者さんへ導入してもらうことに努めてきました。ただその経験は、理論によって体系化しなければ、再現性と説得力が乏しくなるという実感が芽生えてきました。医薬品にも求められるように、私の業務にもエビデンスが必要だと考えるようになったのです。理科大MOTを選んだのは、カリキュラムポリシーに綴られた「妄想力」という言葉に惹かれたからです。私の武器である妄想力や直感力に、知識・理論を加え、異なるバックグラウンドをもつ仲間と共に成長したいと思いました。実際、学生は会社員だけでなく、経営者もいます。皆、社会経験が豊富でそれぞれが先生のような役割もできて頼りになります。各自の会社の事例でディスカッションするなど、多彩な実例をもとにした学びの場は貴重です。また、転職経験のない私にとって、他業界の情報を得ることは、一業界の偏りがちな考えに気づききっかけにもなりました。

学生を鼓舞するゲスト講師の言葉が
熱量を上げてくれる

ゲストスピーカーである経営層や起業家の話で印象に残っているのは、「自信がなければ徹底的に考え調べて、不安要素を潰し尽くす」という言葉です。「その努力を諦めるのであれば、それまでの能力」との話には耳が痛くなりました。これまで「やらない理由」を考えていた私にはハッとさせる言葉でした。また、信頼できる仲間の集め方なども興味深く、どのスピーカーの言葉も私を鼓舞してくれるものばかりです。自分の熱量に、先達の言葉を取り入れながら、理科大MOTでしっかり理論を身に付けようと身が引き締まりました。一年次後期からはグラデュエーションペーパーの準備が始まりました。今は悩みつつも医療情報伝達の仕組みづくりを最終目的に取り組んでおり、先生や学友のアドバイスに刺激を受けています。ここで得たものを活かして行動を起こし、いずれは会社、そして、社会へ還元できたらと考えています。そのために、この掛け替えのない「考える時間」を存分に楽しみたいですね。

修了生・在学生の声



2023年4月入学

伊藤 大介 さん

株式会社クシム
代表取締役社長

最上の価値

そして、仲間との時間こそが

本学で出会った人々、対話、

在学生

Schedule
一週間の過ごし方**日** 朝5時からジムでトレーニング。週明けからの仕事の準備。土曜日の授業の振り返りと授業後課題レポートの作成。**月** 9時から19時まで勤務。その後、火曜日の授業の事前配布資料に目を通します。**火** 9時から18時まで勤務。19時までに理科大MOTへ移動。授業後の課題レポートは、帰宅途中に骨格だけ作ってしまいます。**水** 9時から19時まで勤務。その後、会食がある場合も多く、課題に取り掛かる時間が深夜になることも。**木** 9時から19時まで勤務。二年生になってからは、平日に受講する科目も減って、多少時間に余裕が出てきました。**金** 9時から19時まで勤務。19時からはジムでトレーニング。21時以降はサウナで心身を整えます。**土** 午前中の授業を受講後、カフェでゼミの準備。授業後は、懇親会に参加。仲間と語り合い、遅い時間に帰宅。たまに帰宅できない時も……

経営者として不足する素養が鍛えられるハードな授業

中小規模ですが上場企業の代表となったのは、入学1カ月前でした。不慣れな代表を務めながらの就学は厳しく、入学後3カ月で理科大MOTを辞めようと思ったこともあります。しかし、経営者としての経験、知識、メンタルのいずれもが不足する私にとって、他業界や過去のケーススタディ、経営者の成功と失敗、経営理論、先生や学友との意見交換など、自社の経営に活かせるインプットの機会が無限に広がる理科大MOTの環境は替えがたく、学びを止めることはできませんでした。中でも印象的な授業では、事前にケーススタディの資料が配布され、それを参考に自身の経験に基づくレポートを提出します。そのレポートをもとにバックグラウンドの異なる学生たちでディスカッションする形で授業が進行していくのです。授業前からの準備、これがとてもハードだったのですが、振り返ると最も時間とエネルギーを注いだ「精神と時の部屋」でした。その分、成長を実感し、同じ授業を受けた学生同士や先生と青春を共にしたような熱い友情が芽生える、職場では得られない大切な時間でした。

自社の課題を深掘りする中で「解」にたどり着くすべを学ぶ

私の会社では、ブロックチェーン・ソリューションやWeb3などに関わるITビジネスを行っています。グラデュエーションペーパー(GP)では、このWeb3技術を普及させるための仕組みをどうすべきか探りたいと考えています。私は企業派遣入学ではありませんので、GPのテーマは、必ずしも会社に還元する内容にしななければいけないとは思っていません。なぜなら、自分が最も関心のあることを追究し、楽しく熱中することが大切だと考えるからです。他方、講義やGPの研究過程での学びを活用し、経営課題を掘り下げて分解・抽象化したり、構造化して多面的に観察したりすることによって、解にたどりつく方法やものの見方を身に付けられるのも確かです。ですから私にとっては、本学で出会った人々、対話、仲間との時間が大切であり、そこから得られる学びが事業や経営課題解決のヒントに資することこそ理科大MOTの価値を置きたいと考えています。その結果、おのずと経営者としての素養が磨かれていくのなら何よりですね。



2023年4月入学

桑原 里枝子 さん

東レ株式会社
電子材料事業第1部
半導体材料第1課
課長

重要性

そこから新たな発想を得たい

痛感した「外」を知ることの

在学生

Schedule
一週間の過ごし方**日** 日中は家族との時間を優先。子どもが寝た後は、MOTの課題に取り組みます。仕事と課題の優先順位付けがいつも悩ましいです。**月** 授業がないので、顧客との会食が入ることも。会食の話題では、授業で学んだことや学友から得た知見を活かせるようになりました。**火** 勤務後、課題や予習に取り組みます。あえて目前の仕事をシャットダウンし、「MOTに取り組む時間」を確保することも大切です。**水** 出張でも授業に出られるようスケジュール調整に気を使います。移動中は集中して授業の課題に取り組みます。メリハリが重要!**木** 勤務後にグループワーク。時間が合わず21時から始まることも。疲れが出はじめるますが、全員が頑張っているの自分も頑張れます。**金** 18時過ぎに会社を出てMOTへ。授業後、同期と(たまに先生も)食事。課題が終わっていないときは、終電時間まで残ることも。**土** 19時までゼミでGPの進捗共有。思うように進まない焦りや不安もありますが、先生や仲間からのアドバイスはありがたいです。

課題意識の言語化に苦戦だが、そのプロセスは辛くも楽しい

入学以来、印象に残る授業ばかりです。特に『実践CXO・起業家ケーススタディ』など、ゲスト講師が多く登壇する授業では、業界も経歴も異なる講師が、どう道を切り拓いてきたのかを“単なる成功談”ではなく、苦労や失敗、障壁も含めて生々しく語ってくれます。学生からも鋭い質問が飛び交いますが、立場的に答えづらい質問にも対応してくれ、毎回とても刺激的でした。グラデュエーションペーパー(GP)のテーマを入学時から決めていた学生もいますが、多くは未定で私もその一人。自分が抱えている仕事での問題意識を、解像度を上げて言語化することで初めてテーマを設定できますが、これがやってみると非常に難しいのです。それでもゼミで毎回、壁打ちのようにディスカッションを繰り返し、指導教員やメンバーのアドバイスを受けることで解像度を上げていくことができました。まだまだ事例の確認や検証が必要ですが、ゼミでの発表とディスカッションを毎週、楽しんでいます。

不安ながら挑戦したリスクリングが視野狭窄を打破してくれた

理科大MOTに入学したのは、課長職に就いて5年目のこと。半導体パッケージや電子部品向けの材料を販売する部署で、既存ビジネスを守りながら新規ビジネスの拡大を図っていましたが、その進め方に悩んでいた時期です。就学に不安はあったものの、理系出身で経営やマネジメントに関する知識不足も感じていたため、リスクリングを決意しました。入学して感じたのは、外の世界を知ることの大切さです。今まで「製品を技術的に差別化して販売する」こと、すなわち「モノ」を中心に考えていましたが、サービスの側面でも差別化できる、そんなささいなことにも気づけなかったのは、日常業務と向き合うだけの生活で視野狭窄になっていたからでしょう。ここに来て自社のポジショニングを明確にできたことは大きな収穫です。どの先生も語る「実践・実証することに意味がある」という言葉どおり、理科大MOTで吸収していることを現場で実践していくつもりです。

修了生・在学生の声

2024年3月修了

入江 侑希 さん

株式会社フロウプラトゥ
社長室 経営企画

修了生

Schedule
一週間の過ごし方

日 レポート作成に取り組みが多かったです。また前日のゼミで頂いたアドバイスをもとにGPの研究を進めたりもしていました。

月 講義がないためグループワークに時間を使っていました。業界・職種の違うメンバーとのディスカッションに刺激を受けました。

火 移動時間の確保が難しく、MOTに早めに移動して社内の打ち合わせをし、その後に講義ということも多かったです。

水 事前配布の講義資料を読み、自社ではどうなっているか？を考えた。他社はどうなっているか？を調べることが多かったです。

木 業務にも影響がでないよう、週に一日、まとめて業務を行う日を作っていました。

金 土曜日はゼミの準備+ゼミで終日フル稼働になることが多かったため、できるだけ早く帰宅して体力を温存していました。

土 ゼミは夕方からだったので、それまでは不明点や悩みを先生・学友に相談。ゼミ後は懇親会も多く、親睦を深めることができました。

本質的な課題と向き合う一年間

ビジネスのトップ層と出会い

2024年3月修了

窪田 伸之助 さん

パラマウントベッド株式会社
開発部 課長

修了生

Schedule
一週間の過ごし方

日 自宅でレポート、ゼミのレジュメなどに取り組みました。できる限り朝や夜に行い、昼は子供と遊ぶ時間を確保。

月 講義がないため、勤務に集中できる日。退勤し帰宅後、火曜日以降の課題に時間を使いました。

火 定時で退勤し、神楽坂でオンサイト受講。可能な限り幅広い科目をオンサイト受講するように心がけました。

水 昼休みや勤務後にオンラインでグループワーク。時期にもよりますが、平日の履修は週に2〜3日程度でした。

木 定時で勤務終了。神楽坂でオンサイト受講。授業後は教室や図書室で課題、勉強、グループワークを行うことも。

金 定時で勤務を終え、この日も神楽坂でオンサイト受講。授業後に同級生と議論を交えて食事に行き交流を深めました。

土 朝から夕方まで授業。夜の時間帯はゼミで研究。ゼミの後は、そのままメンバーと懇親会。先生や先輩とも親睦を深めました。

経営者の視点に近づいていく

新事業の発展をけん引するため

大手からスタートアップへの転職で
スキル不足を痛感

10年ほど在籍した大手企業からスタートアップ企業への転職を機に学び直したいと考えるようになり、理科大MOTに入学しました。大手企業では戦略人事業務を担当していましたが、転職後はファイナンスに関することや法律面の対応など、経営まわりで起こることは自分が考えて動いて解決しないと前に進まない状況で、力不足を痛感したからです。一つ一つの経営 이슈に必死に対応していたものの、アウトプットばかりでインプットがなかなかできないことも歯がゆかったです。そうして意を決して入学した理科大MOT、入学当初はとにかく業務との両立に苦しめられましたね。どうにか乗り切るために、業務も勉強もスリム化を図ることに悩んだことを覚えています。そんな中、仕事上の課題について多くの先生が相談に乗ってくれたことは、今でも感謝しています。膨大な他社事例に触れ、議論を重ねる中でしか得られない気づきがあったと、今にして改めて実感しています。

変化の激しいビジネス環境で
舵取りをするための課題が明確に

理科大MOTの魅力の一つは、授業の中でさまざまなビジネス界のトップ層に出会えることでしょう。ある経営者は社員一人ひとりとの対話を重視される方、また別の経営者は戦略や理論を重視される方、そんなふうにタイプの異なる経営者たちから学ぶことで、「勝ち筋」は一つではないことを学びました。大切なのは自分に足りないピースを自覚することなのだ。また、MOTの醍醐味として、グラデュエーションペーパー(GP)の存在は外せません。GP執筆は、業務に追われ、重要であっても緊急度が低いと判断した課題に向き合う絶好の機会。現に私も、自分のビッグクエストに解を出すという貴重な経験ができました。驚異的なスピードで変化するビジネス環境では、短期的かつ中長期的に答えを出して舵取りをしなければいけません。その中で自分が解決すべき課題を少し明確にできたように思います。この経験を活かし、社会にインパクトのある実績を積んでいきたいです。

理論を血肉に変えるため
繰り返し頭脳に汗をかく

自社では製品の企画・開発と兼務する形で、新事業推進を担当しています。この仕事は、当社において新事業をさらに加速させるための重要課題のはず。ですが、現実には既存事業とのリソース配分が難しく、思うように注力できない「もやもや」に悩まされていました。それを解消することが、理科大MOTに入学した主な理由です。入学当初は、学生の所属する業界が多様であることや、授業が非常に実践的であることから戸惑うことも多かったのが本当です。しかし、知識と関心が広がるにつれその環境を楽しんでいる自分に気がきました。中でも『経営理論概要』の授業には相当のめり込みました。まずテキストを読み込み、理論を頭に入れる。次に理論を自社に当てはめて分析する。その上で授業本番、先生や学友たちと議論を交わすのです。それを繰り返す日々は、まさに養成ギブスを付けてトレーニングするような感覚でした。おかげで経営理論を血肉化するための下地が培われたと感じます。

物事の本質を見極め
俯瞰してどこまでも考え抜くこと

グラデュエーションペーパー(GP)の執筆は実に得るものが多かったと実感します。私の場合、入学の動機でもある「新事業の推進」を取り上げることは早い段階で視野に入っていました。しかし、いざ取り組んでみると筆は遅々として進みません。というのは「本当に悩んでいることは何なのか」「なぜその状態が発生しているのか」を理解していなかったからでしょう。そのことに気づかされ、物事の本質を見極める難しさと大切さを学べたことは収穫でした。また、GPは先生方やゼミの学友と練り上げていくものでもあります。皆さんからの鋭い質問やアドバイスに応えることで、自社を俯瞰して徹底的に考え抜く力が培われたように感じます。入学前は課題に立ち向かうのに、経験や感覚だけで解決しようとしていました。今では経営的視点で技術や組織をマネジメントするための理論や自分なりの考え、解決策を持っています。新事業をより魅力的なビジネスモデルにしていけると確信しています。

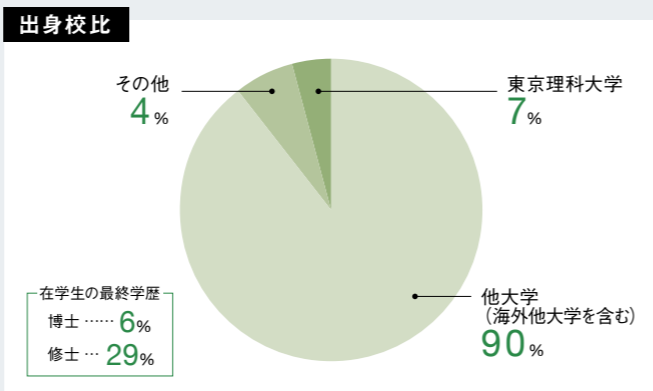
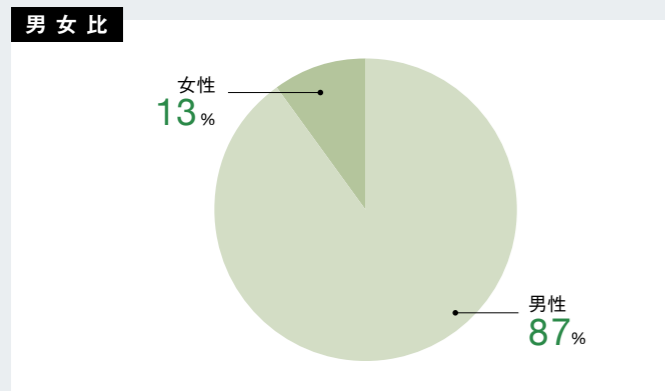
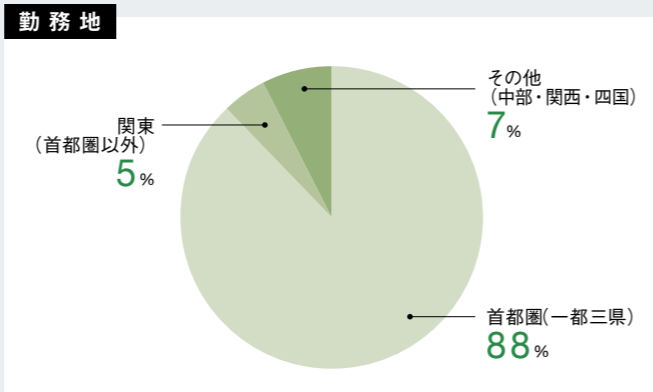
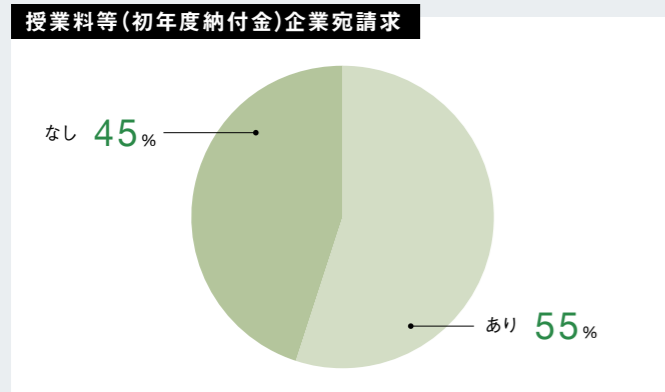
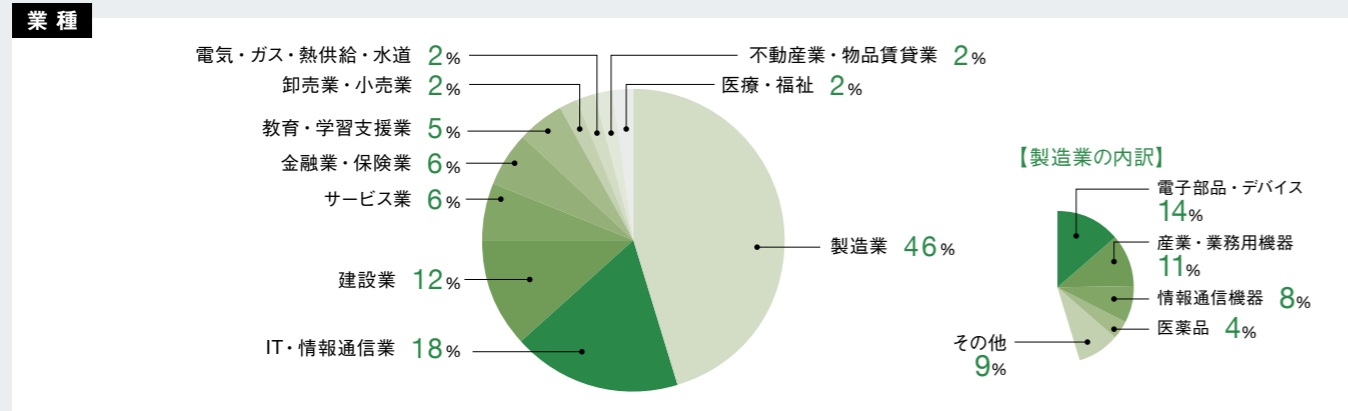
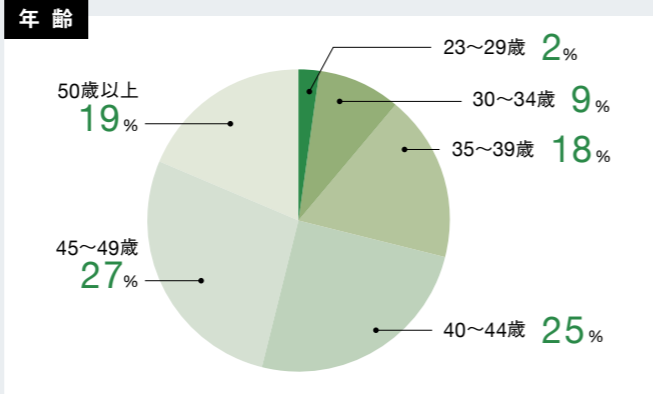
MOT DATA

データで見る東京理科大学MOT

在学生データ(2024年度8月時点での在学生対象)
124名(社会人比率100%)

MOTの魅力の一つは、社会で重要な責務を果たしながら、学業を修了できることです。さまざまな年齢・業種の社会人がグローバル時代を生き抜くために必要な力を培っています。

※円グラフの数字は小数第一位を四捨五入しているため、総数と内訳の構成比の計が一致しない場合があります。



これまでの主な出身機関(企業) ※50音順

- | | | | | | |
|---|--|---|--|--|--|
| IHI
アステラス製薬
安藤・岡
イオン
イーザイ
エヌ・ティ・ティ・データ
沖電気工業
オムロン
オリンパス
学研
カルビー
キヤノン | キリンホールディングス
クシム
グラクソ・スミスクライン
ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント
コニカミノルタ
産業技術総合研究所
サンケン電気
CKD
J.フロント リテイリング
シスコシステムズ
芝浦メカトロニクス
ジャパンディスプレイ | 住友ベークライト
スリーエム ジャパン
セコム
総合警備保障
ソニーグループ
第一工業製薬
大興電子通信
大成建設
ダイセル
大日本印刷
太陽誘電
武田薬品工業 | TDK
デジタル庁
東芝
東芝テック
東レ
凸版印刷
トプコン
ニコン
ニチレイ
日産自動車
日清紡ホールディングス
日本アイ・ビー・エム | 日本政策金融公庫
日本たばこ産業
日本電計
日本電信電話
日本マイクロソフト
日本郵船
野村総合研究所
野村不動産
パラマウントベッド
東日本電信電話
ビジョナリーホールディングス
日立国際電気 | ファイザー
パイ・テクノロジー
富士フイルム
富士フイルムビジネスソリューション
防衛省
本田技研工業
みずほ証券
三菱UFJ銀行
メルコホールディングス
レオス・キャピタルワークス
レゾナック・ホールディングス
など |
|---|--|---|--|--|--|

入学試験

東京理科大学大学院

経営学研究科技術経営専攻の

募集人員

東京理科大学大学院経営学研究科技術経営専攻 80人

学位名称

技術経営修士(専門職)

英文名: Master of Management of Technology

一般入学試験[春期入学] 詳細は募集要項にてご確認ください

■ 出願資格(一般入学試験)

「企業・官公庁等における実務経験(自身による起業含む)※」を有し、次の(1)~(5)のいずれかに該当する者
※実務経験にはパート・アルバイト・インターンシップ等は含まない。

- 学士の学位、若しくは修士の学位を有する者、又は2025年3月取得見込みの者
- 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者、及び2025年3月までに修了見込みの者
- 専修学校の専門課程(修学年限が4年以上であること、その他文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者、及び2025年3月までに修了見込みの者
- 文部科学大臣の指定した者
- 本学研究科が大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で2025年3月31日までに22歳に達する者

※出願資格(5)により出願する者は、独自の出願資格審査があります。

※出願にあたっては入学者受入れの方針 [アドミッション・ポリシー]を確認してください。

■ 出願期間、面接日

◎ 出願は、各期選抜試験のいずれか1期のみとし、複数期の受験は認められません。

	第1期	第2期	第3期
募集人数	15人	25人	30人
出願期間(消印有効)	2024年11月15日(金)~ 11月29日(金)	2024年12月17日(火)~ 2025年1月17日(金)	2025年1月24日(金)~ 2月14日(金)
面接日	2024年12月15日(日)	2025年2月9日(日) ※2月8日(土) ※出願者数により2日に分けて選考を実施する	2025年3月2日(日) ※3月1日(土) ※出願者数により2日に分けて選考を実施する
合格発表日	2024年12月19日(木)	2025年2月14日(金)	2025年3月7日(金)
入学手続期間	2025年1月7日(火)~ 1月14日(火)	2025年2月17日(月)~ 2月25日(火)	2025年3月10日(月)~ 3月14日(金)

■ 入学検定料 35,000円

■ 選抜方法 入学者の選抜は、出願書類および面接の結果により判定します。

■ 2025年度初年度納付金(年額)

入学金	授業料	教育充実費	合計
200,000円	1,170,000円	300,000円	1,670,000円

- 授業料、教育充実費は2回に分納できます。
- 2年次の授業料、教育充実費は1年次と同額となります。
- 上記のほか、学生傷害共済補償費(年間で2,740円、予定)を徴収します。
- 学校法人東京理科大学の設置する大学の学部を卒業し、技術経営専攻に進学する者は、入学金を半額とします。
- 所属する機関(企業)によっては、所属する機関(企業)宛に納付金を請求することも可能です。
個人で支払う場合については、厚生労働省「教育訓練給付制度」を活用できる可能性があります。(詳細は次頁を参照ください)

一般入学試験[秋期入学] 詳細は2025年4月頃に公表する募集要項にてご確認ください

2025年の秋期入学を希望する志願者に向けて、7月に一般入学試験を実施します。

INFORMATION

授業日程等 (参考:2024年度)

4月 2日(火)	新入生専攻ガイダンス / 履修に係る面談(学修指導)
4月 5日(金)	春夏期(前期)授業開始
4月 9日(火)	入学式(4月入学)
8月10日(土)	春夏期(前期)授業終了
9月 7日(土)	秋入学新入生入学前専攻ガイダンス / 履修に係る面談(学修指導)
9月14日(土)	秋冬期(後期)授業開始
12月26日(木)～ 1月 8日(水)	冬休み
1月31日(金)	秋冬期(後期)授業終了
3月18日(火)	学位記・修了証書授与式

立命館大学大学院の授業科目の履修について

経営学研究科技術経営専攻は、立命館大学大学院経営管理研究科との間で、2019年度から単位互換制度に関して、協定を締結しています。立命館大学大学院経営管理研究科に設置する授業科目の履修方法等は、授業科目ごとに定められています。

奨学金

本学ではさまざまな奨学金制度等を設けています。詳細は本学ホームページにてご確認ください。



教育訓練給付制度 (最大で112万円支給されます)

東京理科大学大学院経営学研究科技術経営専攻(MOT)では、厚生労働大臣より教育訓練給付制度(専門実践教育訓練給付)の講座指定を受けました。2024年度入学生から対象となります。

教育訓練給付金の専門実践教育訓練の対象講座に指定

本学MOTは、2023年10月から厚生労働省の教育訓練給付金(専門実践教育訓練)の対象講座に指定されています。2024年4月に入学する学生は所定の条件と手続きを満たせば、国から2年間で**最大112万円**が給付されます。詳細は、「厚生労働省のホームページ」と「厚生労働省のパンフレット(PDF)」をご覧ください。制度等の詳細、申請手続き等については、厚生労働省のホームページをご確認の上、ハローワークへ直接お問い合わせください。

厚生労働省のホームページ



厚生労働省のパンフレット(PDF)

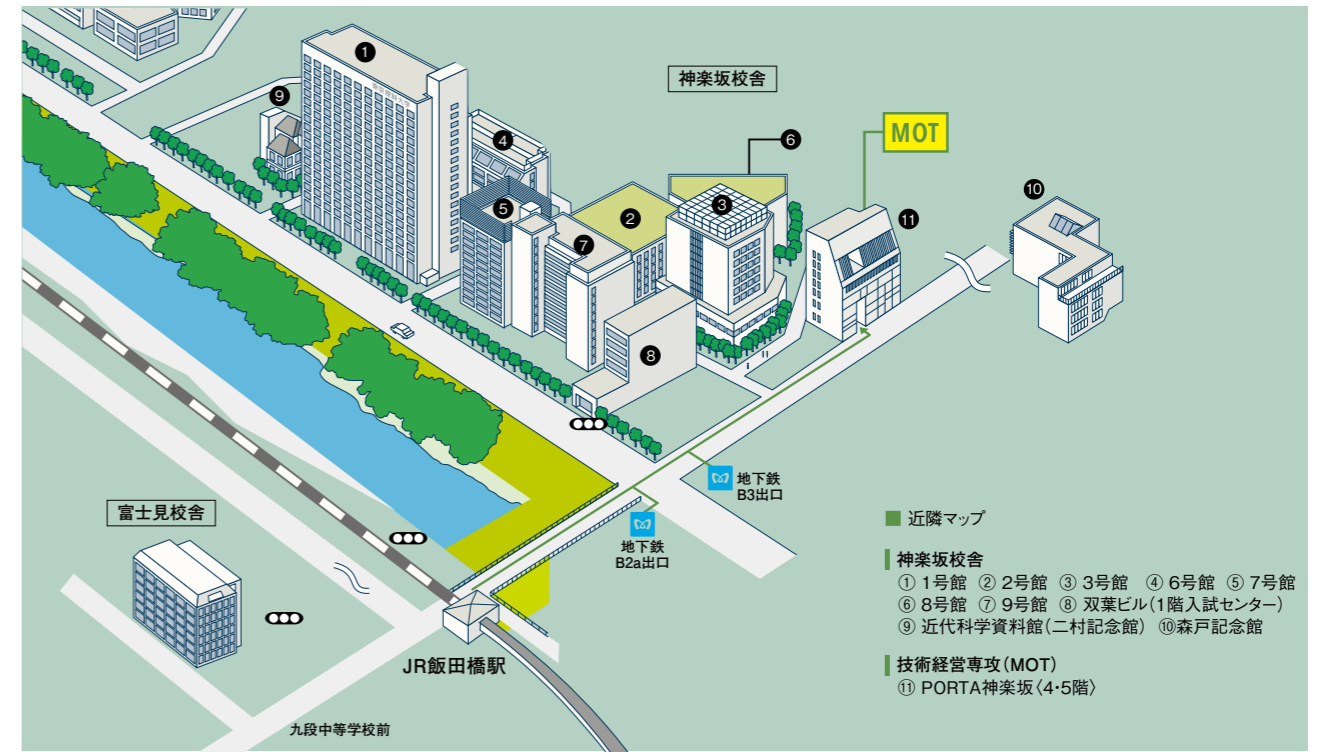


教育訓練給付制度の概要

社会人の中長期的なキャリア形成を目的とした個人向けの助成制度です。この制度は、受講開始1ヶ月前までに本人がハローワークへ申請することで、雇用保険の被保険者期間(3年以上、ただし初めて支給を受けようとする方については、当分の間、2年以上)により、2年間で**最大112万円**の教育訓練給付金が支給されるものです。「専門実践教育訓練給付金」の申請手続きは、お住まいの住所地を管轄するハローワークに対して、受講開始日(4月1日)の1ヶ月前までに行う必要があります。第3期受験の場合はご注意ください。

キャンパスマップ

授業を実施する神楽坂キャンパスの最寄りの駅は、**鉄道5路線が交差する飯田橋駅**となり、**駅から徒歩5分以内**の場所に学び舎があります。



Access

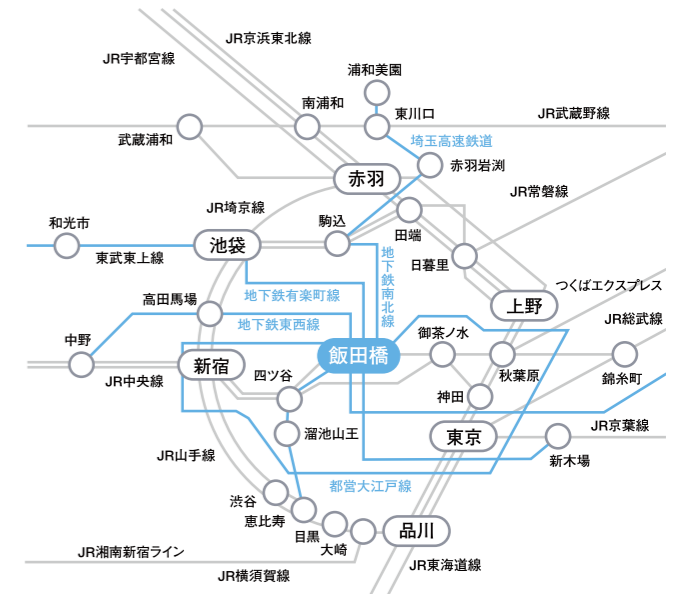
交通案内

JR中央・総武線飯田橋駅西口より徒歩5分
地下鉄有楽町線・東西線・南北線・大江戸線飯田橋駅B3出口より徒歩1分

東京駅から [JR中央線] 御茶ノ水駅乗り換え
上野駅から [JR山手線] 秋葉原駅乗り換え
新宿駅から [JR中央線] 四ツ谷駅乗り換え
目黒駅から [地下鉄南北線] 飯田橋駅まで
横浜駅から [JR東海道線] 東京駅乗り換え

大宮駅から [JR埼京線] 池袋駅乗り換え
川越駅から [東武東上線] 池袋駅経由
千葉駅から [JR総武線快速] 錦糸町駅乗り換え
※乗り換え時間は含みません

— [JR中央・総武線] 飯田橋駅まで…約10分
— [JR中央・総武線] 飯田橋駅まで…約12分
— [JR中央・総武線] 飯田橋駅まで…約12分
…約19分
— [JR中央線] 御茶ノ水駅乗り換え
[JR中央・総武線] 飯田橋駅まで…約36分
— [地下鉄有楽町線] 飯田橋駅まで…約35分
— [地下鉄有楽町線] 飯田橋駅まで…約40分
— [JR中央・総武線] 飯田橋駅まで…約45分



入学試験、その他学修に関する詳細は、本専攻のホームページをご確認ください。

<https://most.tus.ac.jp/>





歴史を育み、イノベーションを創出する「神楽坂」の地で。



東京理科大学
教務部経営学事務課 専門職大学院室
〒162-0825 東京都新宿区神楽坂2-6 PORTA神楽坂

E-mail mot-tus@rs.tus.ac.jp
<https://most.tus.ac.jp/>